

広島大学大学院
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
第7回ショートフィールドビジットを実施しました

平成26年11月1日（土）から2日（日）に、本プログラム学生及び教職員の合計14名が、福島県福島市、飯舘村、南相馬市、小高地区からいわきを見学する、第7回ショートフィールドビジットを実施しました。

平成26年11月1日には、福島市から南相馬市に移動する途中の車内から除染を行っている田畑や除染廃棄物が高く積み上げられている仮置き場などを見学し、その後飯舘村役場に立ち寄り、空間放射線量の簡易測定を行いました。南相馬市では、南相馬市立総合病院において、平成23年3月11日の震災直後から現在までの南相馬市の医療面での現状や課題などについて学習しました。太田川河口では、いまだ強く残る津波被害の影響を、そして小高駅周辺においては避難指示解除準備区域の見学を行いました。小高駅見学後には、平成26年9月15日に通行規制が解除された国道6号線を南下し、福島第一原子力発電所近郊の緊迫した現状や車中での空間線量の計測等を行いました。

11月2日には、学生と教職員を交えて見学した内容についての振り返りを行うとともに、放射線災害復興におけるグローバルリーダーを目指すためには分野横断的修学が重要であることを改めて認識し、特に今回初参加したプログラム新入生にとって非常に重要な機会となりました。



太田川河口の見学



除染による放射性廃棄物置き場見学



南相馬市立総合病院での講義